

イベントなどへの参加の際は手洗いやマスク着用などにご協力ください



# いずみさの昔と今 第317回

## 「中近世における長滝の信仰」

長滝には今なお多くの信仰文化財が遺されています。今回はそのうち、長滝の芸能と中世信仰について取り上げます。長滝の天王淵の側に残る庚申碑（五面地藏石仏）は、かつて長滝に庚申信仰が存在したこと示します。碑には、「慶長拾三年戊申（1608）年」「奉造庚申待講衆」と彫られており、1608年に長滝の住民たちによって建立されたことがわかります。庚申信仰は、道教の習俗（行事）の一部として貴族社会で広まり、鎌倉期以降に武家へ伝わり、15世紀には民間に広まりました。

信仰の内容は、庚申の日に三尸虫と呼ばれる人間の中に住む不可視の虫が、宿主が寝ている間に宿主の罪を天の神（陰陽道では天帝、仏教では帝釈天）に報告し、この報告により天の神が罰を下す、というもので、庚申の日に寝ると報告されるため、寝ずに一晩過ごすという風習が生まれました。庚申講は、前述の庚申の日に行われる講で、2カ月に1回、3年間行い、講を18回行うと石塔（庚申碑）を建てました。ここから逆算すると長滝の庚申信仰は、碑に刻まれた「慶長拾三年」よりも54年前（1554年）に存在したと考えられます。

撰津・河内・和泉では、15世紀以降に青面金剛を本尊とした庚申信仰が四天王寺を中心に仏教的行事として流布しました。庚申信仰で祀られた青面金剛は帝釈天の化身でもあり神道では猿田彦として祀られました。長滝西の番の帝釈座では、伊勢神宮へ施行していますが（帝釈座文書）、これは伊勢内宮の猿田彦神社への施行と考えられます。これらの事例をふまえると西の番の帝釈天社は現在では失われた庚申信仰と関連していたと思われる。

また、猿田彦、庚申信仰と大きな繋がりを持つのが猿楽です。謡曲「ありとほし」の作者観阿弥は、時宗の僧籍を持ちながら民間陰陽師（声聞師）として活動していた人物であり、聖徳太子との縁を伝承してきた人物だったため、陰陽道的信仰と芸能・太子信仰が民衆社会に伝搬する一つの要因になったと考えられています。

庚申信仰は庚申に行うため、「申」に関連する行事や信仰と習合する傾向にあり、猿田彦と帝釈天を繋いだのも仏教・神道双方に庚申信仰の影響があったことが指摘されています。先ほどの四天王寺が拠点となった庚申信仰の場合、能楽や雅楽を担当する楽人が四天王寺へ奉仕していたため、僧籍の楽人が庚申

信仰を伝搬したとも考えられています。更に四天王寺周辺には、中世以来安倍晴明伝説の発祥として知名度を得ていたこと、室町期に四天王寺の楽人が、陰陽師安倍氏と共に天皇の即位の儀式（大嘗会）に舞を奉納していたことも陰陽道の一部であった庚申信仰が四天王寺を拠点に広まる背景にあったとされます。こうした芸能に関わる僧や陰陽師などの宗教者が、全国に民間信仰を広める伝承者であり、彼らが広めた芸能が神楽であり、猿楽でもあったのです。今回はこうした宗教者が広めた申楽の最高傑作、「ありとおし」に登場する蟻通の神について、中世の芸能者の文献を参考に紹介します。



▲長滝の庚申碑

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）  
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

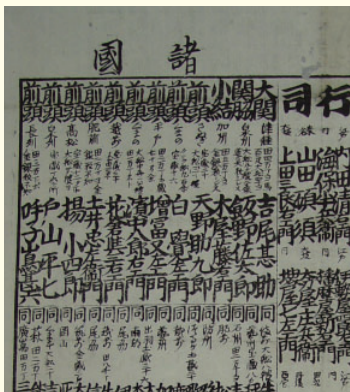
## 日本遺産・北前船文化を巡る③ ～食野一統資料群～



日本遺産

「日本遺産」に追加認定された「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介しします。

問合せ 文化財保護課



▲「諸国家業じまん」（江戸時代）より。関脇に「飯野佐太郎」の名前が書かれている。

食野家（めしのけ）は、江戸時代に佐野を本拠地にして大富豪となった廻船業者の一族です。食野家の廻船業は西回り航路が開かれて北前船が天下の台所に入港する17世紀後半から大いに発展します。大坂から出航するときは木綿、綿実や菜種油などを運び、奥州からの帰りには米やニシンの干鰯（ほしか）などを運びました。このような廻船業や大名貸しなどで巨財を築き、大豪商となりました。

江戸時代中期の1761（宝暦11）年には、鴻池、三井、加島屋など名だたる富豪と並んで同額の御用金を受け、後期の1806（文化3）年には三井とともに本家が3万石、分家が1万石の買米を命じられるほどでした。大名貸しでは岸和田藩はもちろん、全国の大名に資金を用立てました。食野家の当時の発展ぶりは「加賀の銭屋か和泉のメシか」といわれるほどで、佐野くどきにも数々のエピソードが唄いこまれています。これほどの富を蓄えた食野家でしたが、幕末には廻船業がふるわなくなり、明治時代の廃藩置県の際には、大名への莫大な貸金がほとんど返金されず一気に没落してしまいました。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、食野家や唐金家、矢倉家などの豪商が遺した古文書などの資料が所蔵されています。